

## 平成28年度2回向日市地域公共交通会議 会議録

- 日時 平成28年7月6日(水) 10時～11時
- 場所 向日市福祉会館 3階 大会議室
- 出席者 (委員)
- 安田市長(会長)、野津委員、平山委員、阪本委員(代理 町田氏)  
市田委員、多田委員、佃委員、鈴木委員、中村委員、辻山委員、木ノ山委員  
川本委員、川篤委員、道久委員、越智委員、宇野委員(議長)、谷内委員  
菅沼委員(代理 森本氏)、林委員、三沢委員(代理 貴志氏)、太田委員
- (事務局)
- 酒井市民生活部長、浦元防災安全課長、小島防災安全課係長  
美濃部防災安全課主査、橋田防災安全課主査、入江防災安全課主事
- 傍聴者 14名
- 次第
- 1 開会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議事
    - (1) 前回会議の振り返り
    - (2) 今後の進め方について(案)
    - (3) 地域懇談会について(案)
  - 4 閉会

---

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 議事

- 事務局 (1) 前回会議の振り返り
- <1 ページ目・住民意見の聴取方法について>住民意見の聴取方法については、前回会議の中で、①懇談会とアンケートの両方を実施することで、より多くの意見を聞くことができるのではないかと、という意見が出た一方、②のようにアンケートは時間がかかるため、運行開始時期に遅れが出るのではないかと、という意見が出た。
- こうした意見に対し、必要となる経費や時間を検討したが、アンケートについては新たに財源を確保する必要があること、アンケートの作成、配布、入力、分析等一連の作業について数か月から半年ほどの時間を要すること、また、平成23年度に実施したアンケート調査結果についても一定活用できることか

ら、まずは全ての行政区で地域懇談会を実施し、きめ細かく意見を聞くことから始めていきたいと事務局では考えている。

また、懇談会は、③ルート案を作成してから開催しないと、議論がまとまらないのではないかと、との意見も前回会議で出たが、その点についても、この場で議論いただき、必要とのことであれば、これまでの検討内容や過去のアンケート結果を参考にしてルート素案を準備させていただく。

事務局意見として示しているのは、あくまで委員の皆様が議論しやすいように、ということが目的であり、皆様の意見を踏まえてこの会議で決定いただければと考えている。

議長 ただいまの事務局の説明を受けて質問、異論等あるか。

(意見なし)

議長 特に質問等がないようなので、この内容で認めていただけたということで、先に進めたいと思う。

事務局 それでは地域懇談会を実施すること、その際には調査を委託させていただいている京都大学などの見解も勘案しながら、一定のルート素案を準備することとして事務を進めさせていただく。

<1 ページ目・公共交通検討対象地域について>今後、懇談会で意見を聞いていくにあたり、これまで会議で示してきた「公共交通検討対象地域」について、ルート案作成の際、どのような位置付けで使用するのか、委員の皆様の共通認識として一度確認させていただく。

検討対象地域は、駅や既存バス停などからの距離や地域ごとの高齢者割合などから、特に配慮が必要と考えられる地域として、ルート案策定の目安、指針として使用することを想定したものである。

ただし、鉄道駅や各公共施設など、目的地として市民の皆様の要望が高い場所は経路として含まれてくるかと思うので、必ずしもこの地域にしかバスが通らない、あるいは地域の声を聞かないということではなく、地域懇談会もまずは全ての行政区で実施させていただきたいと考えている。

議長 ただいまの事務局の説明を受けて質問、異論等あるか。

(意見なし)

議長 特に意見等ないようなので、次に進みたいと思う。

事務局	<p>&lt; 2 ページ目について &gt; 今後、地域懇談会を開催した後のルート案作成までの流れに関する事務局案を記載させていただいた。</p> <p>地域懇談会でいただいた意見をルート案として事務局でまとめ、道幅などの道路状況を実地調査したうえで会議に示し、委員の皆様には議論いただきたいと考えている。会議で検討いただき、ルート原案が確定したら、広報紙等にて公表し、意見を募ることを考えている。</p> <p>ここでいただいた意見に基づき、ルート案を修正したものを再度公共交通会議にて検証いただき、ルート案を確定していきたいと考えている。</p>
議長	<p>ただいまの事務局の説明を受けて質問等あるか。</p>
委員	<p>地域懇談会を全ての行政区で実施することだが、寺戸町は向日市の人口の42%以上を占めており、他の行政区とどのようなバランスをとるのか。他の行政区が1か所で寺戸地区は2か所で実施するなど考えられるが、事務局はどのように考えているか。</p>
事務局	<p>使わせていただく施設は公民館やコミュニティセンターを想定しており、収容できる人数もかなり大きめであるが、事務局でも実際どの程度来ていただけるのかが全く不明であるため、応募状況を見ながら、参加希望が多い地域があれば、追加で2回、3回と開催させていただきたいと考えている。</p> <p>ただ、あらかじめ施設を予約してしまうと他の利用者に迷惑をかけることになるので、まずは各地域で1回開催したいと考えている。</p>
委員	<p>実施期間が8月中旬から9月中旬となっているが、具体的な日程は決まっているのか。</p>
事務局	<p>8月中旬としているが、お盆の関係で、公民館やコミュニティセンターは17日から開けられているところが多いので、順々に日程を押さえていきたいと考えており、決まり次第、広報させていただければと思う。</p>
議長	<p>地域懇談会についての広報はどのような形で行うのか。</p>
事務局	<p>8月1日の広報紙に掲載させていただきたいと考えている。</p> <p>ただ、広報紙については見ていただける方とたまたま見過す方等もいるかと思うので、公共施設へのチラシの配架やポスターの掲示、地域の回覧等でお知らせしたいと考えている。</p>
委員	<p>今後の進め方において、ひとつひとつのポイントについていつ頃を目途に考えているか教えていただきたい。</p>

事務局 その点についても事務局としては具体的な時期を示したいと考えていたが、懇談会実施後、事務局での意見集約や実地調査等の検証に必要な時間が読めない部分があり、現時点では具体的に示すことができない。

しかし、事務作業にかかる時間については可能な限り短縮し、スピード感を持って進めていきたいと考えている。

議長 今回の説明に関連して、ルート確定の後、どういうプロセスがあるのかを確認しておきたい。

事務局 まずルート案と並行してバス停の場所を決める必要がある。

ルート確定後は、運行ダイヤや運賃等を決めていかなければならない。

議長 ルートを決めただけで走るわけではなく、他にもプロセスがあることを承知していただきたいと思う。

また、ルートを決める過程で、運行するにあたりどのようにすれば地元から支援いただけるか、どういう形で盛り上げていただけるかという点についても併せてどこかで議論いただきたいと思う。

委員 利用者の対象は全ての市民としているが、車イスを利用されている方やベビーカーを押している方、押し車を利用されている方などへの配慮についてはこちらからの要望で決まっていくものなのか。

事務局 コミュニティバスとして高齢者の方や普段買い物に行かれるときに手段が無い方等を想定して進めるべきかと考えており、車イスをご利用の方等が乗降しやすいバスについてはいくつか車種があるので、その辺りについても今後議論いただければと思う。

議長 例えばリフトがついていて直接乗り込めるとなると車種が限定されてくるので、比較的大きめの車両になると思う。そうするとルート案を調整しなければならない。その辺りは要望をいただいてからルート等を調整していくことになると思う。

事務局 <3ページ目について>地域懇談会について、まず、開催時期としては、8月中旬から順次、全ての行政区において、公民館又はコミュニティセンターで開催することとし、8月1日の広報でお知らせするほか、地区回覧や公共施設でのチラシ掲出などで広く参加を呼びかけたいと考えている。

実施方法については、出席者全員に発言していただけるよう、6～8人程度のグループに分かれて地図にルートとバス停の位置を書き込んでいただくワークショップ形式を考えている。

その後、各グループで作成したルート案について発表していただくが、各会

場でひとつの案に集約することはなく、事務局で持ちかえり、まとめたものを次回会議で報告させていただき、ルート案の検討を行っていただきたいと思う。

懇談会を出していただいたルートについては、道幅などの物理的制約があるため、全ての意見を取り入れることができるとは限らないが、まずは地域の声を聞き、ルート案の検討を進めていきたいと考えている。

委員 懇談会の実施時間帯は決まっているのか。

事務局 前回のアンケート結果からもバスを必要とされている方は高齢者の割合が多く、また日常の買い物や通院、公共施設等での手続きを用途として挙げられていることも多かったため、主な利用時間は平日の日中であると事務局では想定している。そのため、懇談会の実施時間帯も平日の午後を想定している。

議長 事務局でルート素案を作る方法と白地図を広げて一からルートを考えていただくという方法があると思うがその辺りはどうするのか。

事務局 事務局で作る素案というものは、道路の幅員などそれぞれの地域の実情に即したのではなく、公共施設や商業施設を大まかにつないだものになると思う。その素案を地域懇談会で見ていただき、地元の方から意見を聞きたいと考えている。

ただ、もし事務局の素案からではなく、白地図から作りたいというグループがあれば、そのように対応させていただく。

議長 議論のたたき台として事務局素案を用意して提示しながら、議論の仕方は、懇談会の参加者に選択していただくということで承知した。

委員 ルート素案を作るとのことだが、地域懇談会の実施前にルート素案を委員に対して見せていただきたい。

地域懇談会では、事前にバスを走らせる目的や費用面について説明し、考え方を共有したうえで、ルートを考えていただくように進めていただきたい。

この事業について最終的な責任をどこに求めるのかということをあいまいにしておくのは非常に怖いと思う。地域におろしていく場合はもう少し具体的に内容を伝える工夫、深い議論をできるような資料作りをお願いしたい。地域懇談会が行政側のアリバイづくりのためのものになってしまうのでは意味がないので、その辺りについての資料等は事務局できちんと作成していただきたいと思う。

事務局 懇談会までにルート素案を提示してほしいとの意見については、この会議で語り、了承を得たうえで懇談会に入るべきだということであれば、そうさせていただくが、その分懇談会の実施時期が遅れてしまうので、その辺りも含めて

この会議の場で意見を頂戴したい。

例えば、懇談会に入る前に作成した素案を郵送で委員に配布させていただくのは可能かと思うが、それに対して意見を頂戴し、修正するとなれば8月中下旬の実施は難しくなってくるかと思う。

ルート素案を作って懇談会に臨むということは、あくまで懇談会の参加者が議論しやすいようにということが目的である。一からルートを作成していただくことも考えたが、時間がかかりすぎるのではないかということになった。

また、あくまで事務局主導で進めていくということは一切考えていない。そういったことから参加者に議論をしていただきやすいような大まかなルートを示すという趣旨で提案するに至ったという経過はこの場でお伝えさせていただきたい。

ルート案作成の前に、バスを走らせる目的や費用面についての説明が必要であるという意見であったかと思うが、他にも便数やダイヤ、どの車両を導入するのかなどを決めなければならないことがある。

しかし、懇談会で意見としていただいたルートでバスが通行できるとは限らないし、車両を小さくすればその分乗車人数が減ったり、車イスを利用されている方が乗車しにくいといったことも出てくると思う。いずれを優先させるかについてもこの会議で議論していただくことになると思うが、まずは運行ルートが市民のニーズに合致していることが最も重要かと考えているため、いただいた運行ルート案について実現可能かどうかは実地調査を含めて、検証していかなければならないと思う。

また、まず地域の意見を聞くことにより、図面上は道幅等問題なさそうな場所も、実際は路上駐車が多く走行が難しいなど現地の情報も得られるかと思うので、その点についても懇談会で聞くことができると考えている。

会 長

まず、この会議で検討していただく一つの大きなことは、今まではこのような会議が行政のアリバイ作りになっていたが、この会議はそうではなくて、しっかりとどのようなバスが必要か、どこを走らせたいか、全て皆様の意見を集約したものを出していただきたい。そのような中で、それを我々行政と議会が判断をして、OKとなれば責任の所在は全て我々にあるということになる。そのような思いで取り組んでいる。

懇談会で提示するルート素案については、白紙の上を書くということはなかなか難しいので大まかなルートを作るということであり、何よりも大切なことは我々がルートを決めようとは全くしていないということである。皆様が必要とするルートで走らせていただいたらいいと考えている。

バスの車両については、予算のこともあるので、長岡京市のはっぴいバスの車両や78系統で使用しているバスあたりを想定している。それ以下のバスは想定しておらず、そのバスが通れるルートということで最終的に検討させていただきたいと考えているが、それでも小さいバスに変えてでも必要であるということであれば、その時点で検討していきたいと思う。

幾度となく申し上げているが、一度ルートを決めたからといって、そのルートが延々と固定されるわけではない。利用者がいないルートは廃止する必要もあるかと思う。また、利用の要望があるルートについては加えていく必要があるかもしれない。そして一番大切な利用時間帯についても検討していかなければならない。一度ルートを決めて運行させてから考えなければならないこともあるので、その都度この会議に諮りたいと思う。

委員 ルート素案については、郵送で送っていただくなり、それに対して意見を言う場が委員としてもあったほうがいいのではないかと考えている。

バスをみんなで支えるという意識づくりであったり、バスのあり方について、行政と市民で勉強するような形で進めていかなければ、いいコミュニティバスにはなっていないのではないかと考える。そのため、ルート案を決めていただくことも地域懇談会では大事なことではあると思うが、それ以上に市民の意識を喚起していくということを考えていただければと思う。

議長 素案はあくまで参考であるといいながらも、そこにはこういった人たちに乗ってほしい、あるいはこういうところを通すべきだという何らかの意図が必要だと思う。その意図なしに案はできないので、行政の素案としてはこういう人たちが乗るのではないかと、これを作るとこのようところが便利になりますというように結び付けて、地元へ説明して、「いや、そうではない。そうは思わない。」などといった意見も頂きながら進めていければいいのではないかと考える。

委員 地域懇談会の説明のなかに想定しているバスの車両についての説明も加えていただきたい。

委員 実際に乗りたいと思っている方が懇談会に参加されると思うので、むしろ道幅であるとか、バスの形式を抜きにして、利用したい方がどこにバス停が欲しいのかということ意見を意見として出していただいて、実際に通れないということであれば、近くにバス停を置けるところは他にないかという風に修正していく方が、より乗ってもらえるルート作りになるのではないかと考える。

地域懇談会でルート作成作業に入る前に、バスを走らせる目的や行政の考え方などについて事前学習のような基礎的な話をしたうえで、ワークショップに入ったほうがスムーズにいけるのではないかと考える。

ワークショップのファシリテーターは事務局で行うのか。自由な意見を述べていただくようにリードしていくことが必要であるため、否定をせず、みんなの意見を聞くという形で運営できるような中身で実施していただければと思う。

- 委員 事務局としてルート素案をすでに持っているのか。また、そのルート素案についてどのような思いで作成するのか、その辺りの決意について伺いたい。
- 事務局 ルート素案についてはまだ現時点では検討していない。平成23年度に実施したアンケートの内容や公共交通検討対象地域、高齢化率や市内の地勢・地形を踏まえて検討していきたいと考えている。
- 委員 市域全体についてのルート案を提示していただきたい。その案を見て全体像を掴んでから、各地域のルートについて考えていけるようにしていただければと思う。
- 委員 懇談会について各地域内のどこに停留所を設けたいかを主に話し合っ、その地域から主にどこに行きたいかという点については各地域内で完結した意見を述べていただくというイメージでよかったか。
- 事務局 お住まいの地域内については細かく見ていただいて、それ以外の離れた場所については目標だけを示していただくというようにすることも可能ではあると事務局では考えているが、その辺りについてもこの会議で議論いただきたい。
- 委員 イオンノール京都桂川に行くのに不便だという高齢者の方も多くいらっしゃる。以前のアンケート結果の行きたい場所のイオンとは東向日にあった店舗のことであり、桂川ではないため、現状とは少し違う点があると思うが。
- 会長 運行開始がいつになるかはわからないが、東向日のイオン跡地に市役所の庁舎が移転するほか、その下の階にもスーパーが入る予定であるため、その辺りも考えながら、進めていきたいと思う。以前のアンケートで東向日のイオンに行きたいという思いは2年後にはまたそのような思いでもあると思う。  
また、イオンノール京都桂川にも行きたいという思いもあると思う。ただ、すべてをバスで回ることは大切であると思うが向日市は駅がたくさんあるので、駅に接続して、その駅からは電車で行っていただくという選択肢もあるので、その辺りも十分に考えながら進めていきたい。
- 委員 コミュニティバスが成功する秘訣というのは、いかに利用されている方が我がまちのバスだと思うかどうかということである。  
懇談会をするにあたり、地元の方に我がまちのバスであること、経済的にも厳しいため、乗らなければ継続することはできないという機運を醸成するという取組を事務局で行っていただく必要があるのではないかと思う。

- 事務局 懇談会に臨むにあたり、バスに乗っていただく機運を高めるような話をさせていただいてうえで、ルート案の作成に取り掛かっていただこうと考えており、コミュニティバスを走らせる目的であったり、どのようにすれば利用していただけるかなどの意見もその場でいただければと思う。
- 議長 今までいただいた意見を踏まえながら、地域懇談会を開催するということについては了解いただけるか。
- (異議なし)
- 議長 時期はお盆開けを目途に進めていただきたいと思いますと思う。
- 委員 コミュニティバスを運行し始めたことにより、民間路線が減便もしくは撤退してしまった自治体もあるので、既存の公共交通機関との連携についても今後考えていかなければならないと思う。
- 議長 既存の路線バスとの連携は重要なことであり、路線重複はできるだけなくしつつ、空白地域と思われるところはできるだけサポートできるように、ルート案の段階から工夫が必要ではないかと思う。
- 事務局 地域懇談会に持参させていただくルート素案については、郵送になると思いますが、委員の皆様にお知らせさせていただく。
- 会長 コミュニティバスの必要性を感じたのは、市内の勾配のきつい坂を歩いているときに、自分でも厳しく感じるぐらいであれば、高齢者や障がいのある方はもっと厳しいのではないかと思ったのがきっかけである。
- 色々な年代の方や障がいのある方から意見をいただき、ルートを作成していきたいと考えている。
- コミュニティバスを走らせることによって既存のバスの利用者も増えていき、我がまちのバスであるからこそ我々が盛り上げていくという気持ちを皆様に持っていただき、ちょっと用事があったらバスに乗ろうという思いを持っていただくことが、コミュニティバスを長い間続けていける秘訣であると思う。
- そして、それが必ず必要なことであると思っている。まだ色々な議論をしていただかなければならないが、これからもどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

## 5 閉会